

令和4年5月12日

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立青葉小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
足利市立青葉小学校	<a href="https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/">https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/</a>	<a href="https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/">https://www.city.ashikaga.tochigi.jp/soshiki/a95/</a>

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「【教育課程特例校】特別の教育課程の実施状況等について（足利市）」を参照。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

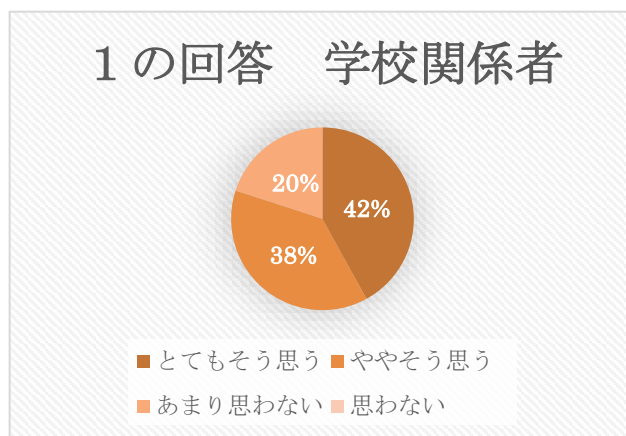
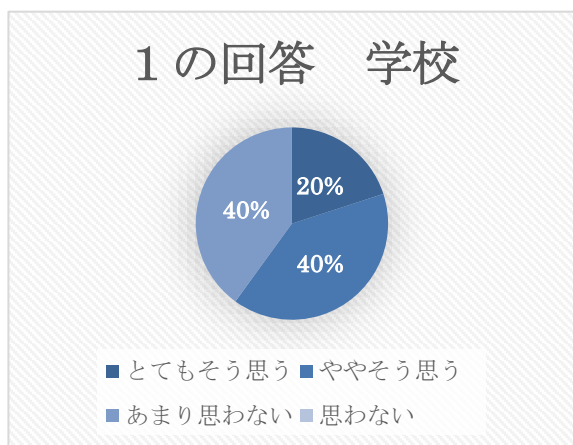
- ⊙計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

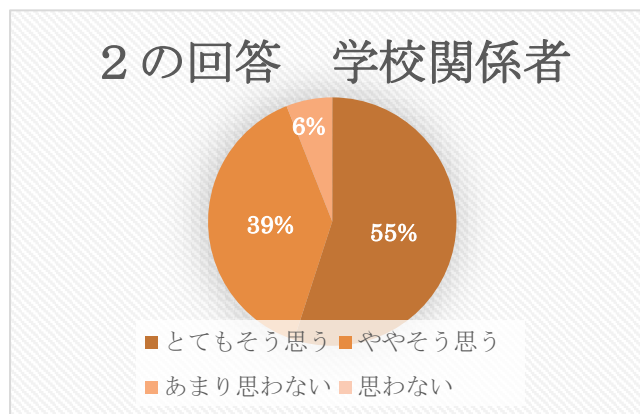
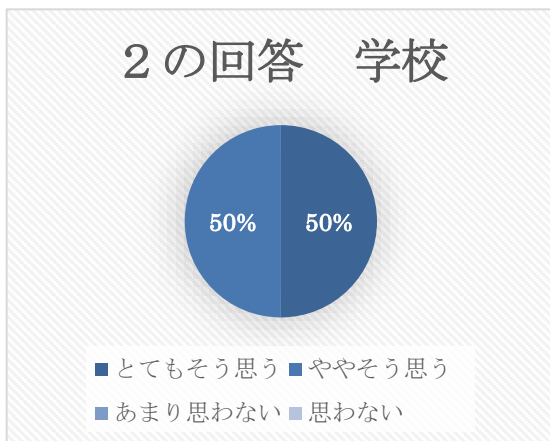
- ⊙実施している
- ・実施していない

(3) 自校における評価 (4) 学校関係者による評価

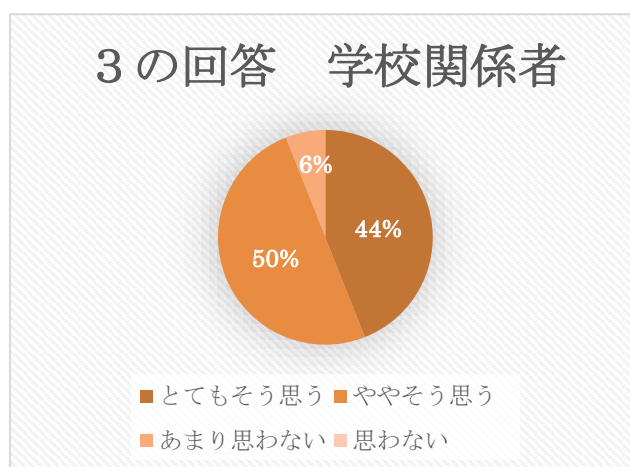
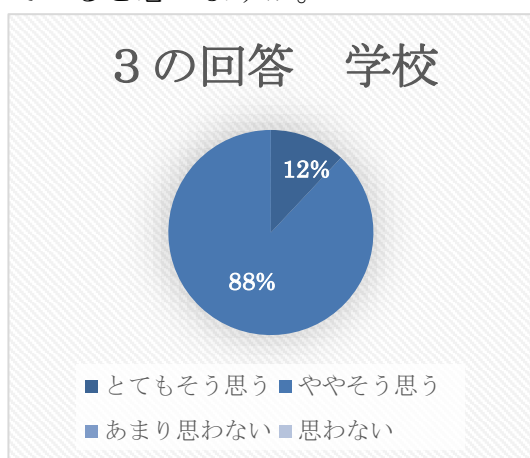
①. 1年生からの英会話学習が英語によるコミュニケーションの基礎的な能力の育成につながっていると思いますか。



②. 1年生からの英会話学習は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。



③. 1年生からの英会話学習によって、外国語や外国の文化に込める興味・関心が高まっていると思いますか。



#### 4. 第1学年からの英会話学習の実施に期待することは何ですか。

##### 【保護者】

- ・苦手意識を持たせないように進めて欲しい。
- ・恥ずかしがらずに英語を話して欲しい。
- ・中学校の英語にスムーズにつながって行って欲しい。
- ・読む・書く・聞く・話すことの向上を期待している。
- ・外国語や外国の文化に興味を持って欲しい。
- ・小さい頃からネイティブの発音に慣れ親しんで欲しい。
- ・英語に慣れ親しんだり、興味を持ったりして欲しい。
- ・会話をたくさんして、外国の友達も作れるようになって欲しい。
- ・コミュニケーション力がついて欲しい。
- ・英語を身近な物と感じて欲しい。
- ・社会に出たときにも役に立って欲しい。

##### 【教員】

- ・英語を通して、外国の言語や文化に興味・関心を持って欲しい。
- ・会話を通して、自分の世界を広げて欲しい。
- ・小さな頃からの英語の耳慣れ・インプットをする機会になって欲しい。
- ・日本以外の文化を知るきっかけになって欲しい。
- ・外国語を学ぶ楽しさを感じて欲しい。
- ・自分のことを英語を使って表現する体験をして欲しい。
- ・ネイティブの発音に慣れ親しむことができる。
- ・英語塾に行かなくても、日常会話ができるようになる授業でありたい。

#### 4. 実施の効果及び課題

- ・児童は、低学年から英会話や外国人講師に慣れ親しむことで、英会話を身近なものとして感じていることが伺われる。3年生は英語劇を演じたり、4年生は足利観光案内所を英語で開催したりしている。この様子から、児童が自ら英語を話すことに抵抗が少なくなっていることを感じている。これは、英会話学習の成果だと思う。また、高学年の英語チャレンジDAYでは、一日中、外国人講師と触れ合い、英語を話すことや聞くことを楽しんでいる様子だった。普段の授業でも、ALTやEAAと英会話を楽しみながら学んでいる児童が多いので、中学校でのALTの授業への抵抗も少ないのではないかという期待が持たれる。
- ・一方で、「英語は苦手」という意識を持つ児童もいて、「分からないから」「難しいから」という理由で、消極的になっている様子も見られる。
- ・また、期待、と言う点から、英語塾に行かなくても学校の授業で話せるようになって欲しい、話す・聞くに加え、書く・読むことの技能の定着にも期待を寄せている意見もあ

り、基本的な技能の定着もより力を入れるところだと感じられた。

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

低学年からの英会話授業は、英会話を身近なものと感じられるよい機会になっていると思う。上学年になるにつれての苦手意識を持たせないように、「楽しい」だけではなく、「わかる」「できる」授業を大切にしていけることが必要だと考えられる。そのためには、各単元のゴール（到達目標）を見据えた授業作りが必要となる。「この単元で何をできるようにしたいのか。」「そのための授業展開はどうあるべきか。」といったことを念頭において、スモールステップを意識した授業を組み立てていくようにしていきたい。さらに、児童の実態を把握するためにも終末での振り返りも大切にしたい。また、児童が英会話を身近に感じられるように、英会話の場面作りには、他教科との関連や、必然性のある場面などを考え、ALT や EAA と打合せをすることが考えられる。

英語チャレンジDAYでは、教師側が組み立てた授業プランで慣れ親しむことだけではなく、児童が外国人講師に自分を表現する機会を設けることも大切と感じた。インプットしてきたものをアウトプットしてみて、「できた。」（話せた、英語が通じた）喜びや自信を付けさせる場の設定もしていきたい。